

2015年3月期決算説明会



2015年 5月

株式会社DNAチップ研究所

DNA Chip Research Inc.

<http://www.dna-chip.co.jp>

I. 前期決算概要及び今期計画	3	Ⅲ. 今後の研究開発について	16
1. 決算サマリー		1. リウマチチェック	
2. 業績推移(3年間)		2. リウマチチェック開発予定	
3. 事業区分別売上高実推		3. 免疫年齢	
4. 2015年3月期業績詳細		4. RNAチェック開発予定	
5. 具体的推進プランの達成状況		5. 株式会社エンプラスとの業務提携	
6. 2016年3月期計画		6. 微量化・自動化の開発	
7. 2016年3月期計画値の詳細		7. 遺伝子情報を含めた健康情報化	
8. 研究受託事業比率、粗利率の推移		8. DNAチップ研究所事業スキーム	
Ⅱ. 2016年3月期業績改善施策	12	9. 中期事業計画	
1. 「業績改善」推進プラン			
2. 具体的推進プラン			
3. 体制変更			



I. 前期決算概要及び今期計画

I-1. 決算サマリー

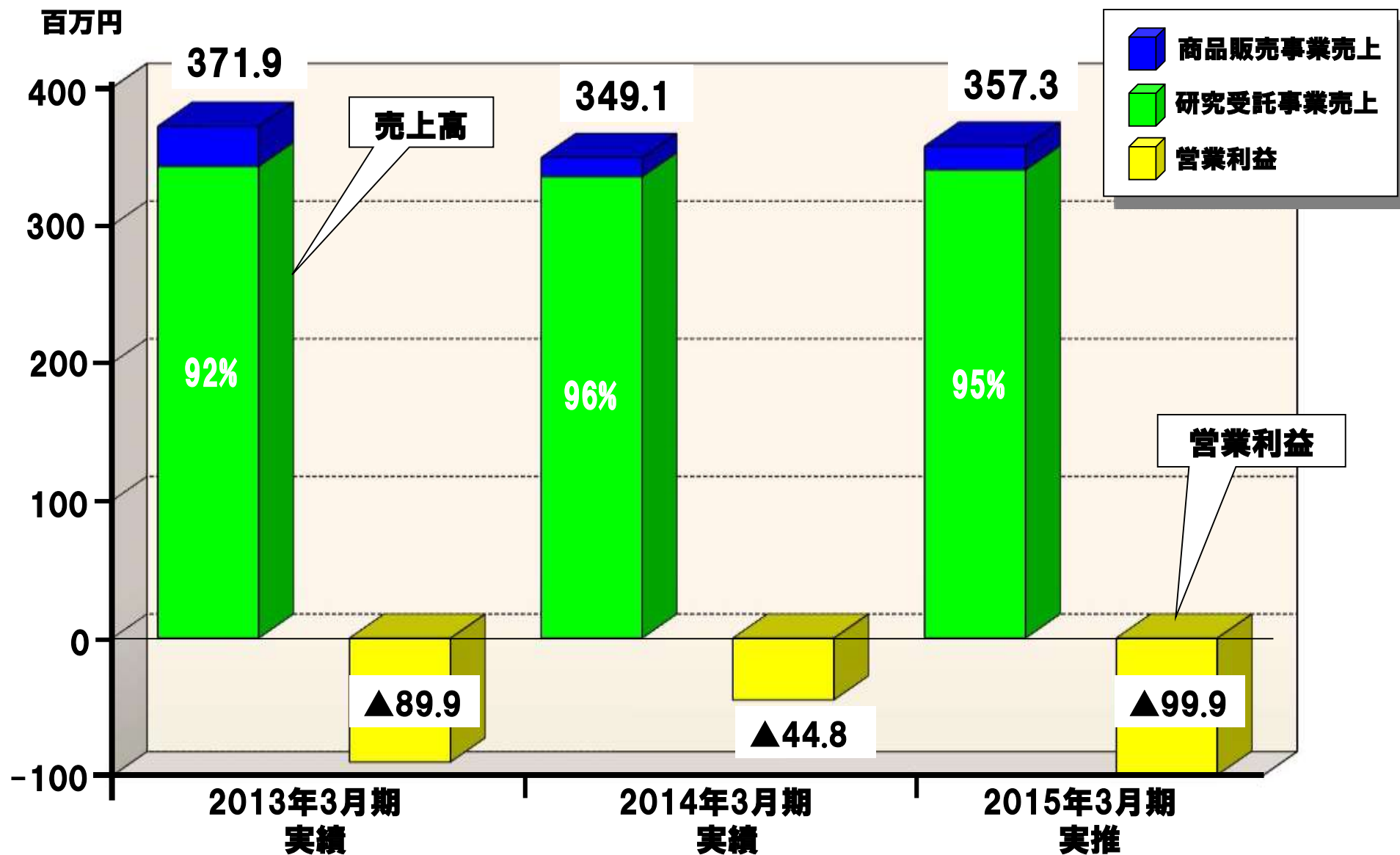
	2014年3月期	2015年3月期			対前年度比
		(予想値) ^(注1)	(実推)	比	
売上高(千円)	349,067	440,000	357,321	81%	102%
営業利益(千円)	△44,782	2,000	△99,429	—	222%
経常利益(千円)	△44,743	2,000	△119,054	—	266%
特別利益(千円)	0	0	0	—	—
特別損失(△千円) ^(注2)	84	0	15,875	—	18899%
当期純利益(千円)	△45,779	1,000	△135,916	—	297%
研究開発投資(千円)	86,412	71,100	153,807	216%	178%
総資産(千円)	394,018	—	896,866		228%
純資産(千円)	338,737	—	833,393		246%
1株当り純資産額(円) ^(注3)	99.93	—	181.73		182%
1株当り当期純利益(円) ^(注3)	△13.50	—	△37.19		275%
営業利益率(%)	△12.8		△27.8		—
自己資本比率(%)	86.0		85.9		—

(注1) 予想値は、2014年4月24日に公表した2015年3月期業績予想数値である。

(注2) 2015年3月期の特別損失の内訳は、事業用資産及び共用資産の減損損失他である。

(注3) 2014年12月8日付けで848,000株の第三者割当増資及び新株予約権8,520個(新株予約権1個につき100株)の発行を行っており、前事業年度の期首に当該増資が行われたと仮定して、1株当たりの純資産額及び当期純利益額を算定している。

I-2. 業績推移(3年間)



I-3. 事業区分別売上高実推



(金額単位:百万円)

項 目		2014年3月期		2015年3月期			対予算比 (%)	対前年比 (%)	注 残
		売上高	比率	売上高	比率	予算			
研究受託 事業	研究受託(公募他)	56.1	16%	97.0	27%			173%	4.1
	受託サービス	261.7	75%	226.8	63%			87%	
	診断サービス	17.4	5%	16.4	5%			94%	
	計	335.2	96%	340.2	95%	430.0	79%	101%	
商品販売 事業	汎用チップ・試薬	9.0	3%	10.7	3%			119%	6.9
	診断キット他	4.9	1%	6.5	2%			133%	
	一般機器							—	
	計	13.9	4%	17.2	4%	10.0	172%	124%	
合 計		349.1	100%	357.3	100%	440.0	83%	102%	10.9

売上高が357.3百万円と、対前年同期比102%。研究受託事業に限ると対前年同期比101%の仕上がりであるが、対予算比では79%と大幅未達となった。

【研究受託事業】

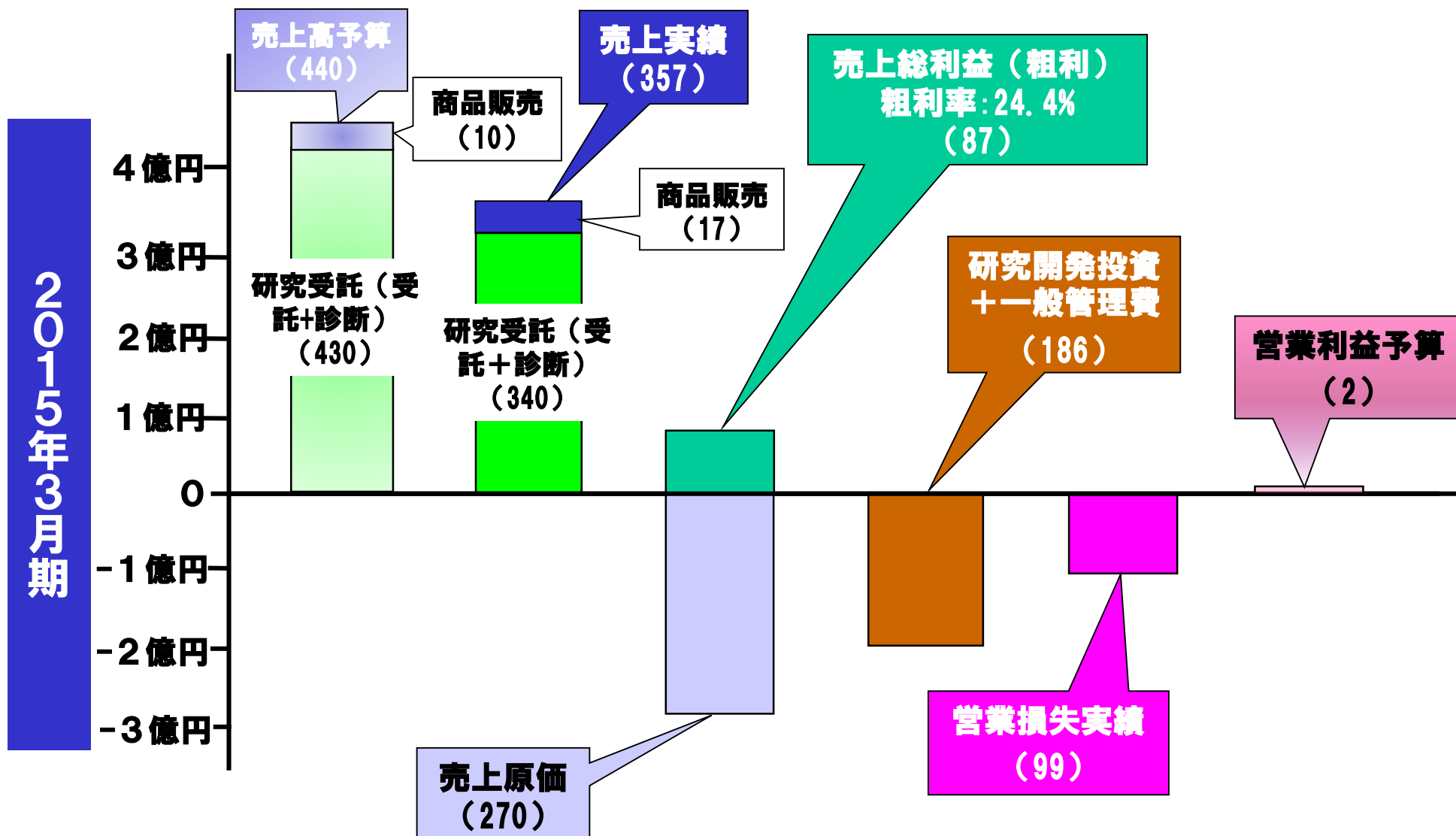
構成比率の高い受託サービスでは大型案件の受注が翌期にずれ込んだ。また診断サービスでは、リウマチの多剤効果判定の製品化の遅れや新たな診断メニューの製品化遅れにより売上未達となった。

【商品販売事業—汎用チップ・試薬、診断キット他】

自社商品であるハイブリ先生や、iRIS等診断キットの販売が好調に推移した。

I -4. 2014年3月期業績詳細

1. 研究受託事業(受託+診断)における大型案件の受注が翌期にずれ込むなどにより、予算未達となった。
2. 売上高予算未達及び、診断サービスにおける新規メニュー開発のための研究開発費が増加したことにより、営業損失が99百万円と赤字実績となった。



I-5. 具体的推進プランの達成状況

研究開発から事業化へ加速 —研究受託メニュー充実と診断関連事業強化—

1. 提案型研究受託メニュー強化 —マイクロアレイ解析と新規受託サービスの推進—

No	具体的推進プラン	達成状況
	【継続施策】	
1	全社員営業活動と提案型研究受託提案	リピート顧客確保と食品、創薬系の大型案件15件受注
2	新規受託メニューの充実	PCR受託、次世代シーケンス受託の大型案件6件受注
3	新規研究受託（2012年下期から開始）	国プロ委託研究（公募事業）を8件獲得
4	健康支援事業（2012年下期から開始）	食品企業等をターゲットとした受託研究9件受注
5	再生医療支援事業	大学等研究機関を中心に33件受注

2. 診断関連事業拡充

No	具体的推進プラン	達成状況
	【継続施策】	
1	リウマチ多剤効果判定	3剤のサービスは2015年夏にシフト、病態マーカー特許取得
2	iCIS-crdb、iPadソフト・ビジネスの展開	iRISクライアントサーバー版の開発及びサービスの開始
3	医薬品開発と一体化した診断マーカー開発へ参入	血液を用いたEGFR遺伝子変異測定サービス準備完了
4	RNAチェック(免疫年齢)開発強化	～DiVA (digital identification of variant alleles for EGFR)～ うつ病、アルツハイマー診断マーカー開発推進 (RT-PCR化)
	【新規施策】	
1	診断事業の海外展開	専門部署の新設～海外クリニックサイトと連携～
2	販売促進のためのアライアンス強化	新規クリニックサイト及び国内遺伝子診断関連会社と連携

I-6. 2016年3月期計画

項 目	2015年3月期 実推	2016年3月期 計画	対前年度比
売上高(千円)	357,321	440,000	123%
営業利益(千円)	△99,429	△48,000	—
営業利益率(%)	—	—	—
経常利益(千円)	△119,054	△48,000	—
経常利益率(%)	—	—	—
当期純利益(千円)	△135,916	△49,000	—
研究開発投資(千円)*1	153,809	105,105	92%

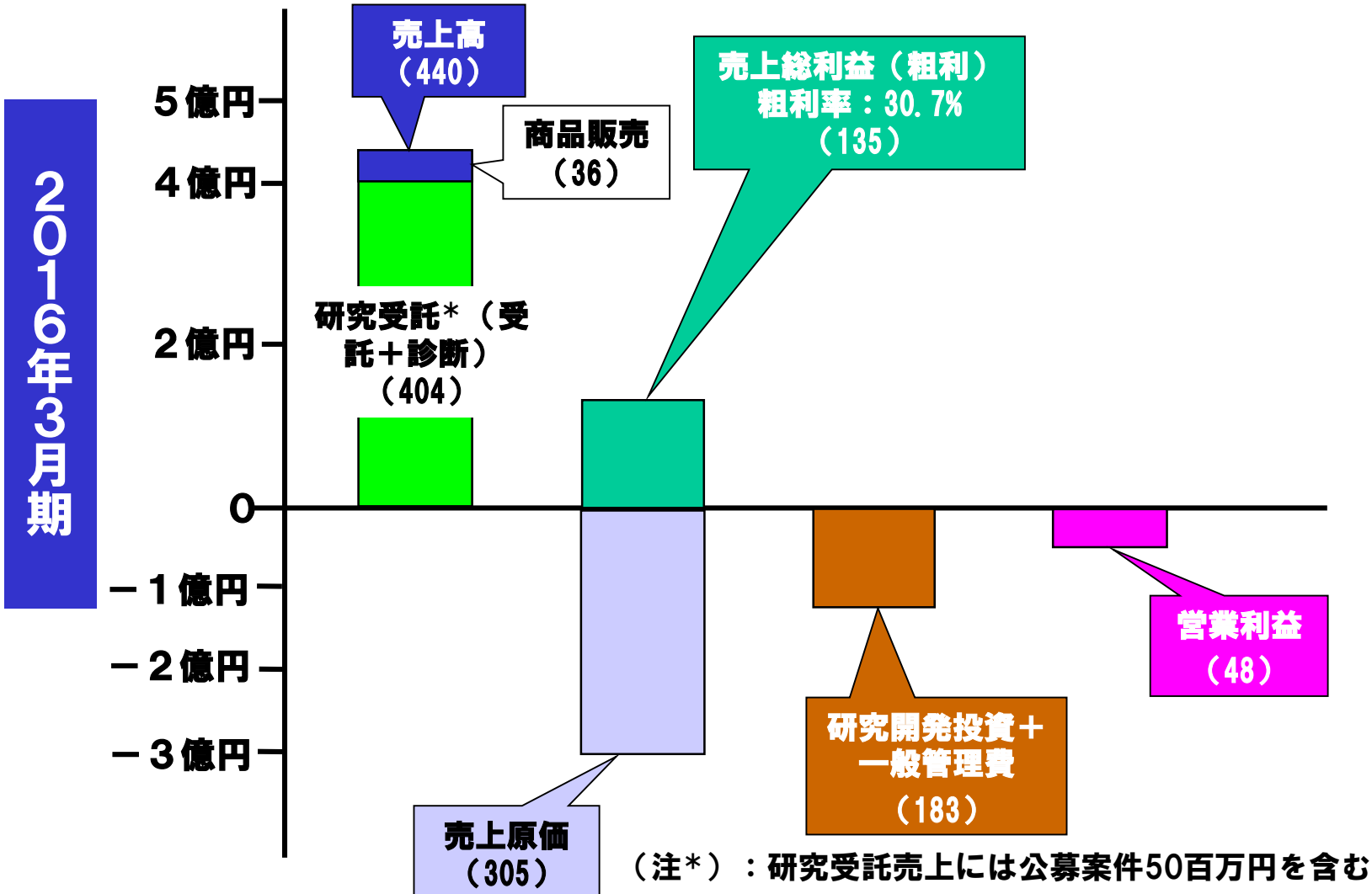
(注*1)2015年3月期研究開発投資額実推153,809千円のうち、自社負担分は56,823千円。2016年3月期研究開発投資計画105,105千円のうち、自社負担分は55,105千円である。

(対前年度比較)

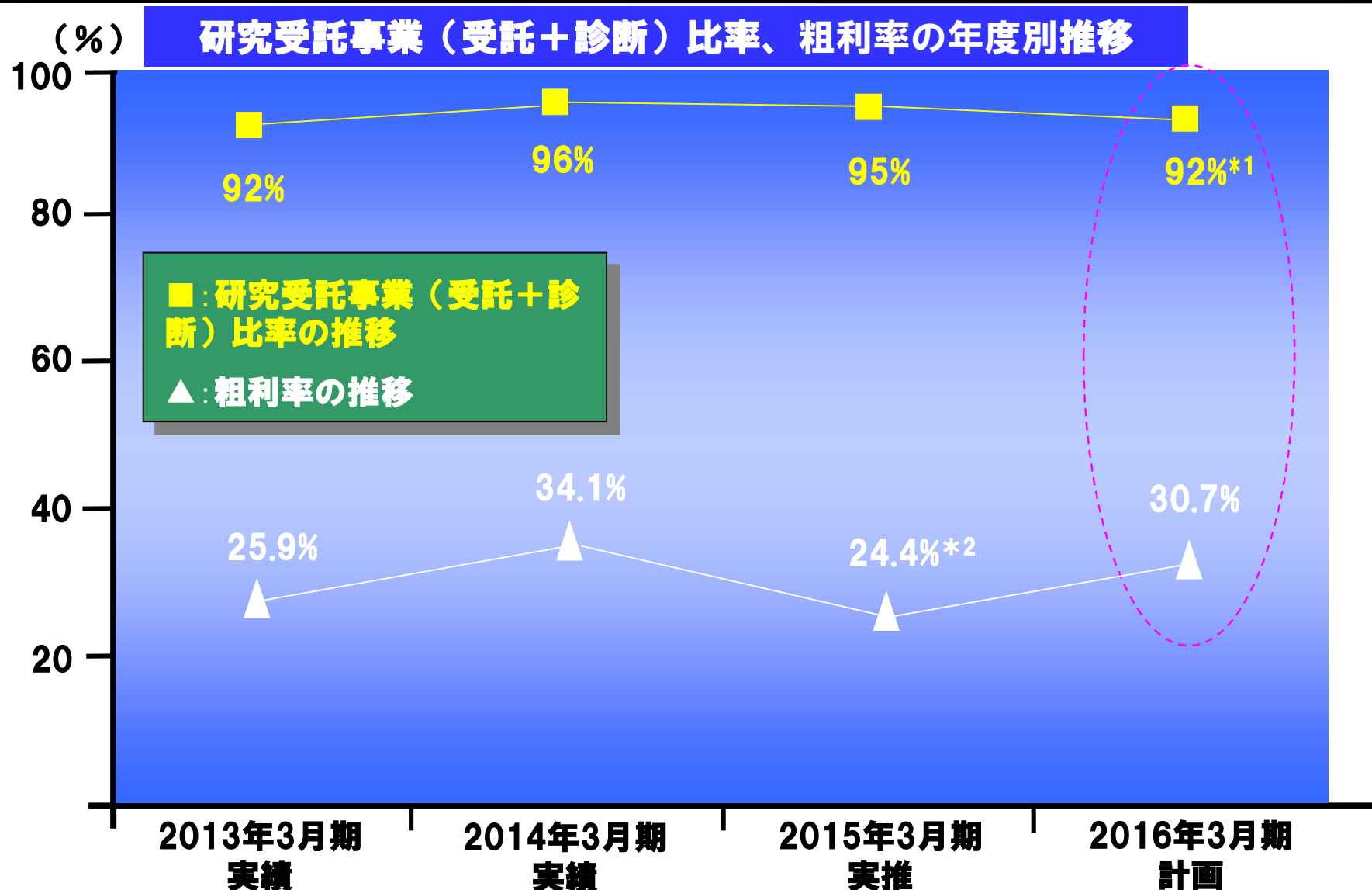
- **売上高** : **研究受託事業** → 【受託サービス】
 (340百万円 → 404百万円) (1)提案型研究受託の強化:製薬会社・食品会社等企業向けビジネスの拡大
 (2)新サービス開発によるメニューの差別化:新サービスによる他社との差別化
 【診断サービス】
 (1)新規サービスの販売開始:「リウマチチェック(多剤効果判定)」、「免疫年齢」、「EGFRチェック」
 (2)海外展開の促進:海外担当部門新設による米国、アジア圏事業展開

商品販売事業 → 弊社独自開発パッケージ製品の販売に注力
 (17百万円 → 36百万円) ハイブリ先生、iRISの拡販
- **営業利益** : 研究受託事業売上増加(売上高:340百万円 → 404百万円 119%増)による人件費等の固定費回収増
- **研究開発投資** : 関節リウマチ総合支援サービス推進、未病モニタリング(RNAチェック)サービスのメニュー拡充、がん関連コンパニオン診断サービスのメニュー拡充のための研究開発

1. 提案型受託サービスの営業強化と新サービスの開発
 - 企業向けビジネスの拡大、新サービスメニュー開発による他社差別化促進 —
2. 診断サービスの多角化と海外展開
 - 「リウマチチェック」、「免疫年齢」、「EGFRチェック」の販売、診断サービスの海外展開推進 —



2016年3月期は特に新規診断サービスの研究開発、販売開始と海外展開に注力



【研究受託事業（受託＋診断）比率、粗利率向上の理由】

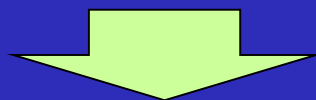
- (1) 売上高に占める研究受託事業の比率が90%超で推移（販社ビジネスから自社製品ビジネスへの転換）
*1研究受託、商品販売事業間での製品分野の変更により、2016年3月期研究受託事業比率が若干低下
- (2) 作業効率の改善及び粗利率の高いメニューへの重点化による粗利率の向上
*2売上高に占める研究受託（公募等）の比率増（対前年度比173%）により、粗利率が大幅低下



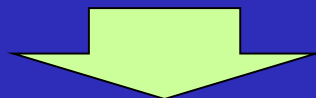
Ⅱ. 2016年3月期業績改善施策

～開発力強化と事業化加速～

- I. 営業力強化(外部連携強化)
- II. 診断事業加速のための投資
- III. 新規メニュー開発による差別化



収益部門と研究部門の分離
実現可能な予算策定



オープンイノベーション・最新技術の事業化
グローバル展開

I. 営業力強化(外部連携強化)

事業開発本部・診断事業本部の販促強化

- 情報インフラ整備及び提案型営業力強化
 - 新規営業人員強化及び他社との販売連携
 - 海外担当部署新設による海外展開強化
- 製販一体となった営業展開、HP—新—
— 病院、クリニックを中心とした営業強化—
— 診断事業を中心とした海外展開へ—

II. 診断事業加速のための投資

診断支援サービス研究開発強化

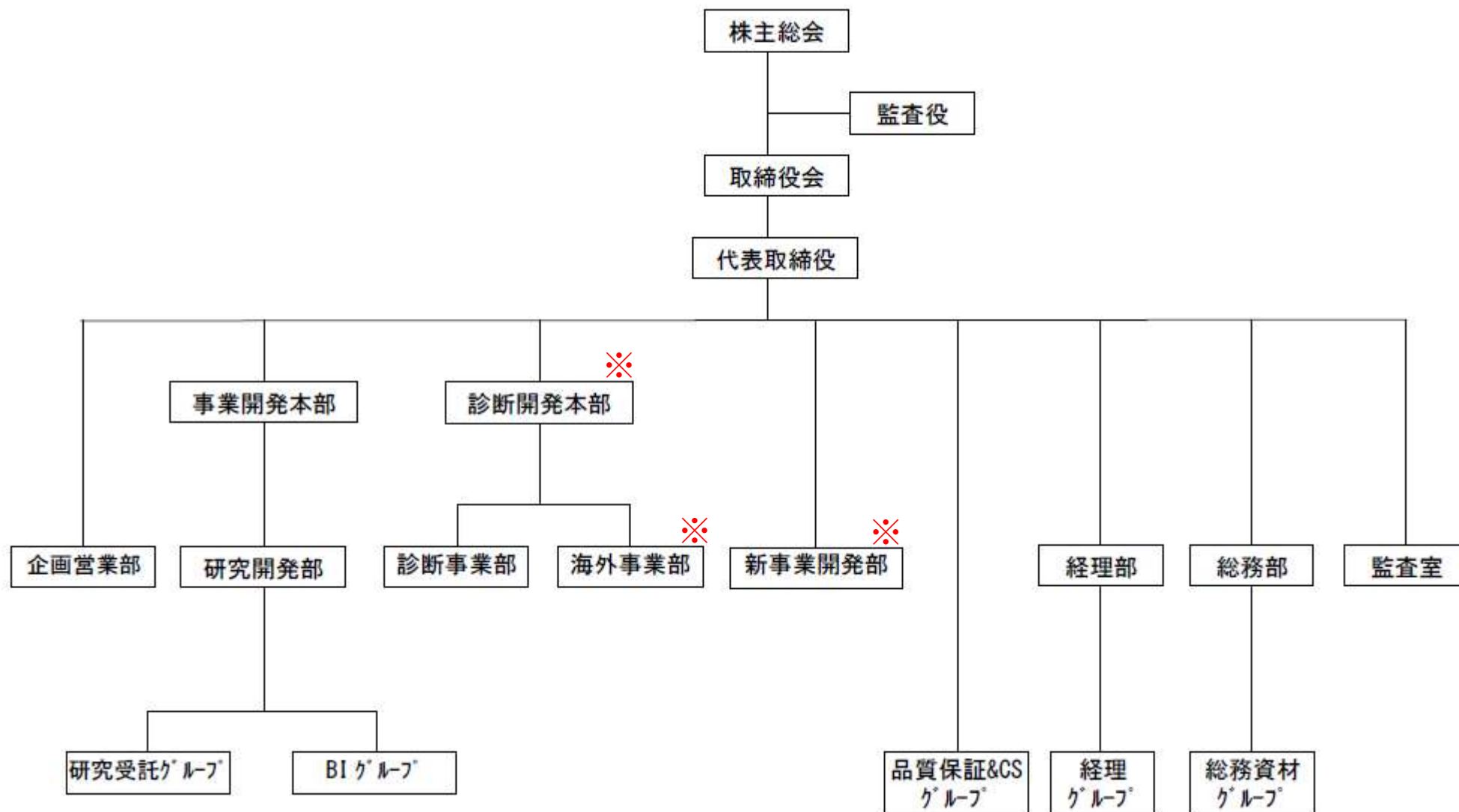
- リウマチチェックサービスメニューの充実
 - 未病モニタリング研究開発の加速化
 - 次世代診断ツールの研究開発
- 多剤効果予測の充実及び病態マーカー研究—
— 免疫年齢を中心とした「RNAチェック」研究—
— エンプラス社との共同研究開発—

III. 新規メニュー開発による差別化

市場ニーズに合わせたメニューの拡充と大型案件獲得

- 新規受託サービスのメニュー化
 - 新規技術導入による受託メニューの差別化
 - 健康支援事業
- 癌領域を中心としたエクソソーム受託サービス—
— デジタルPCR受託サービス—
— 食品企業を中心とした大型案件獲得—

II-3. 体制変更



※ 新設部署

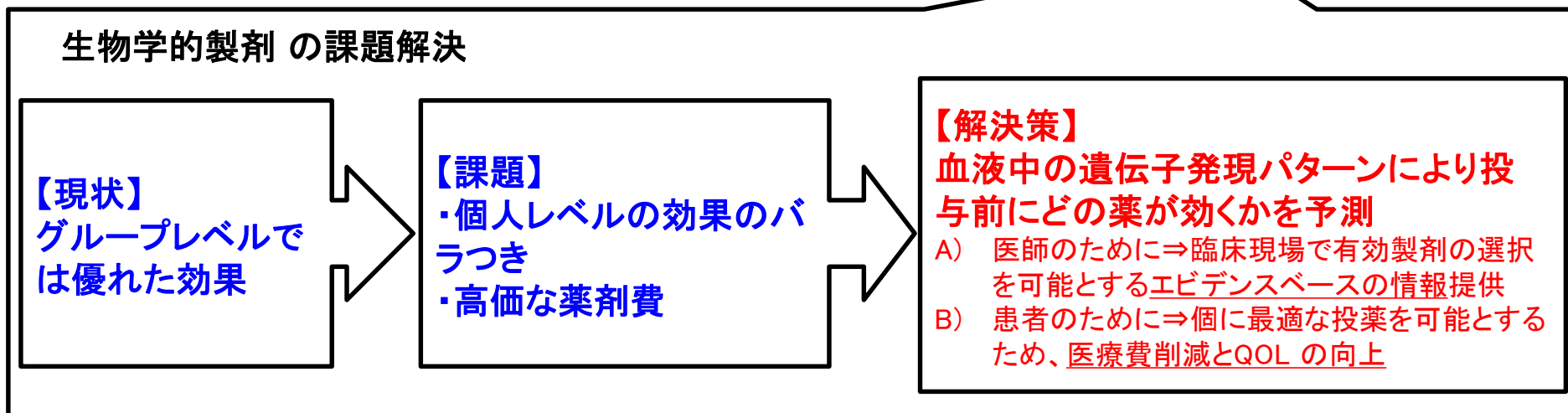


Ⅱ. 今後の研究開発について

関節リウマチ生物学的製剤効果予測

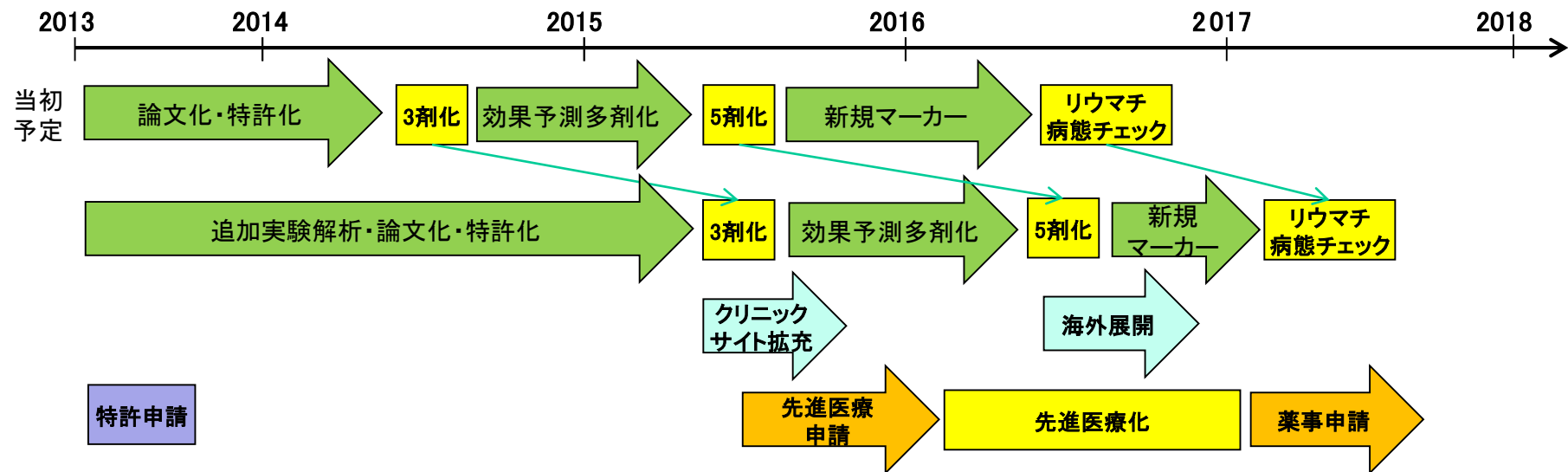
※出典:「病院の実力2010」、読売新聞社

患者数	新規患者数	男女比	発症年齢	生物学的製剤を用いた治療した場合の、患者一人当たりの負担費用
約70万人	約20,000人／年	約7割が女性	30～60歳代が中心	約40～60万円／年



慶應義塾大、埼玉医科大学総合医療センターとの共同研究

Ⅲ-2. リウマチェック開発予定



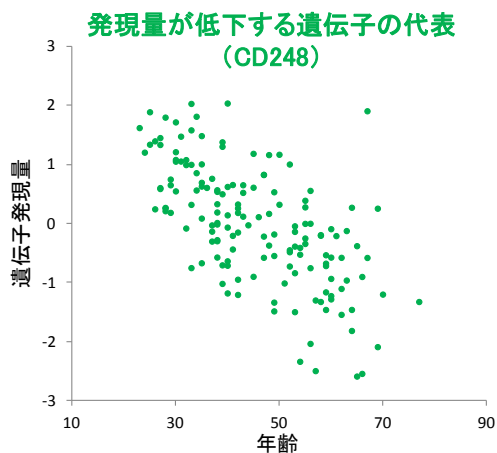
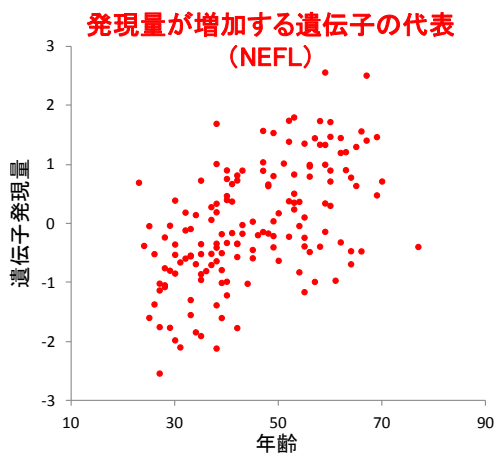
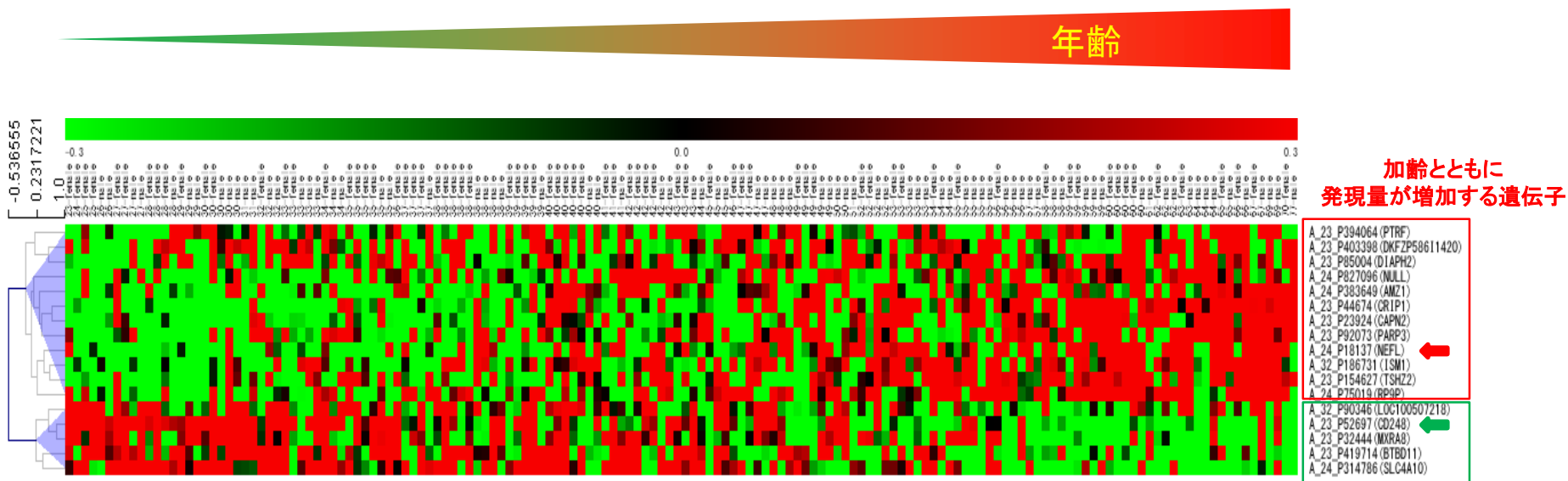
◇生物学的製剤3剤インフリキシマブ、トシリズマブ、アバタセプトの薬剤効果予測研究の論文化・特許化
 (検体数: 計317検体)



薬剤効果と関連するGene Expression Signature の同定に成功
 ⇒ リウマチェックバージョンアップに向けて準備中

病態マーカー特許取得
 特許第5676777号

加齢とともに発現変動する遺伝子の同定



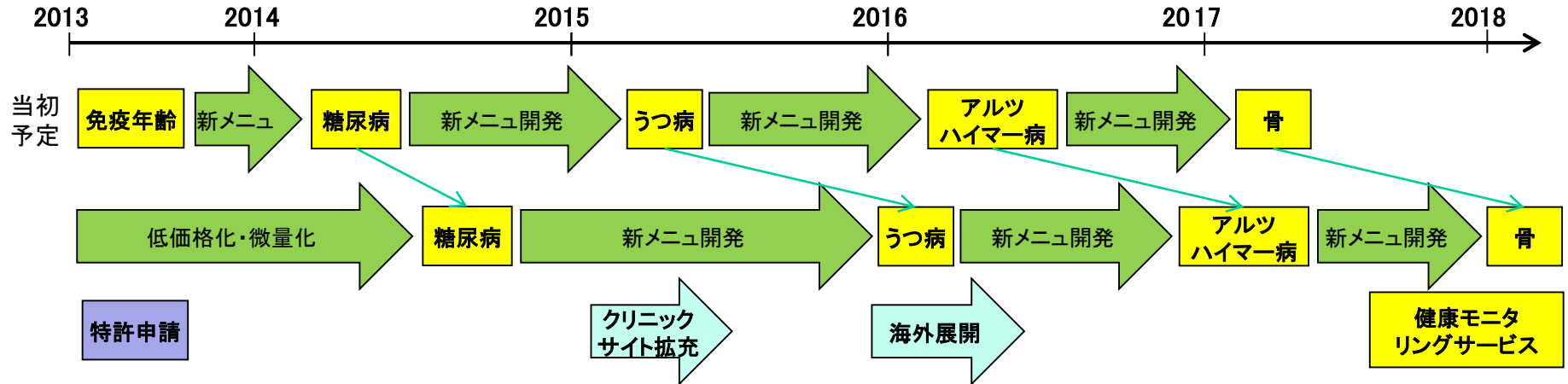
加齢とともに
発現量が低下する遺伝子

我々は、世界に先駆けて加齢とともに血中免疫細胞内の発現量が変化する遺伝子群の同定に成功しました。

これらの遺伝子は加齢に伴ってリスクが上昇する様々な疾患のバイオマーカー候補となります。

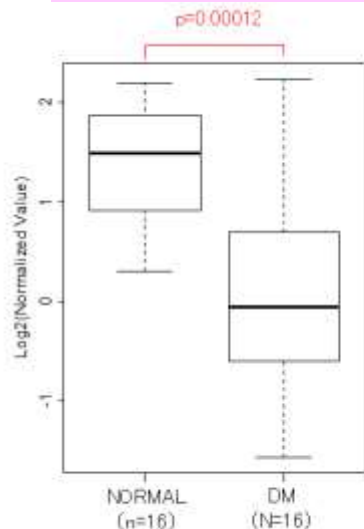
Ⅲ-4. RNAチェック開発予定

RNAチェックとは？ 血液検査(血中免疫細胞の遺伝子発現RNAを調べる)により健康状態を察知



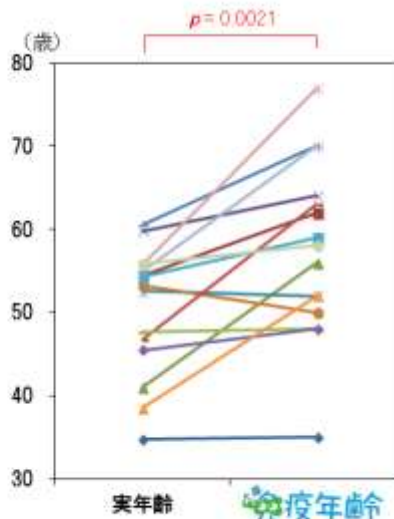
加齢マーカーと糖代謝異常

健常者 vs 糖尿病患者



糖尿病患者PBMCにてCD248発現量低下

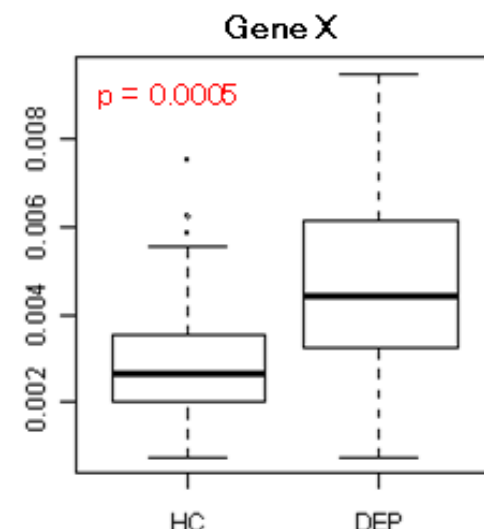
耐糖能異常者(IGT)



耐糖能異常症例にて年齢が高く算出される

うつ病マーカー

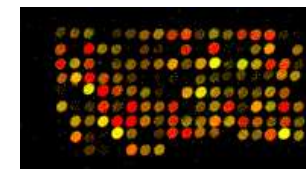
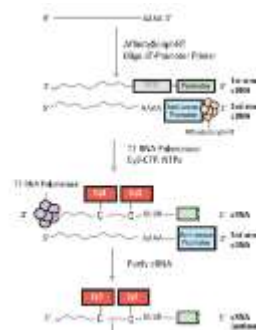
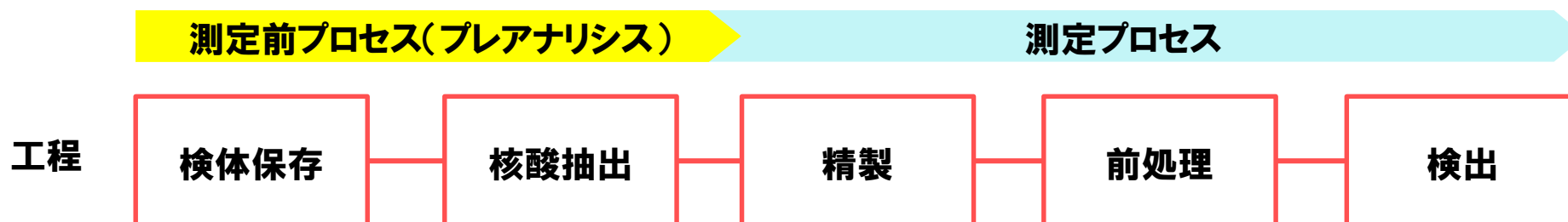
健常者 vs うつ病患者



うつ病患者で発現上昇

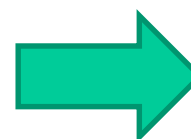
- バイオ事業における業界ネットワークの補完
 - 分析機器業界へのネットワーク補完
 - 新規顧客開拓、共同開発の推進
- 新製品開発能力の強化
 - 高精度遺伝子解析技術の開発
 - 次世代診断ツールの開発
- 海外インフラの利用
 - 米国における研究開発及びマーケティング強化
 - アジア、ヨーロッパにおける販売、マーケティング拠点の活用

遺伝子解析のステップ



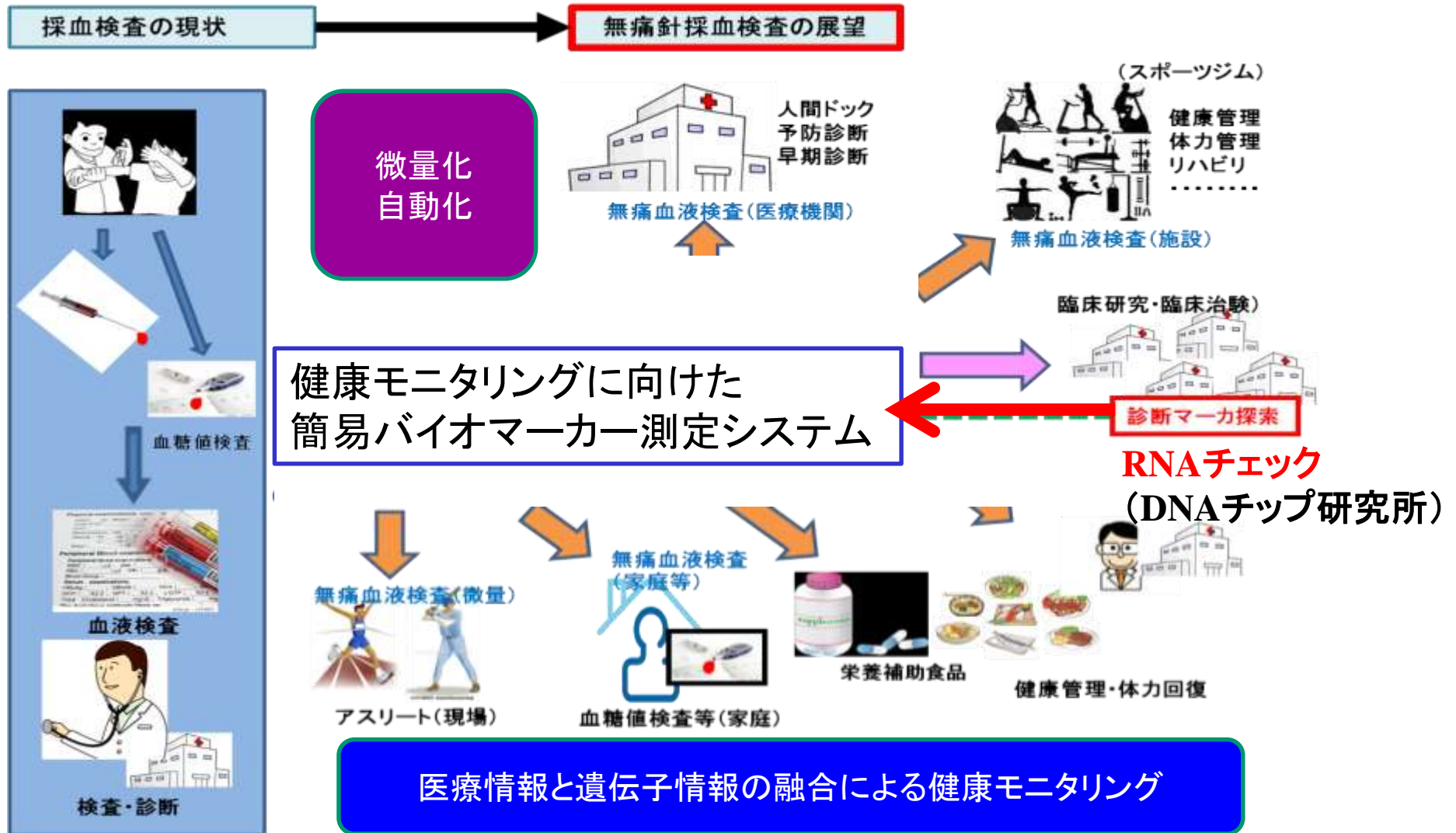
問題点:

- ・ ステップが多い(時間)
- ・ サンプル量(血液量)が必要
- ・ 医療機関でしかサンプルが採取できない
- ・ 試薬代などのコスト



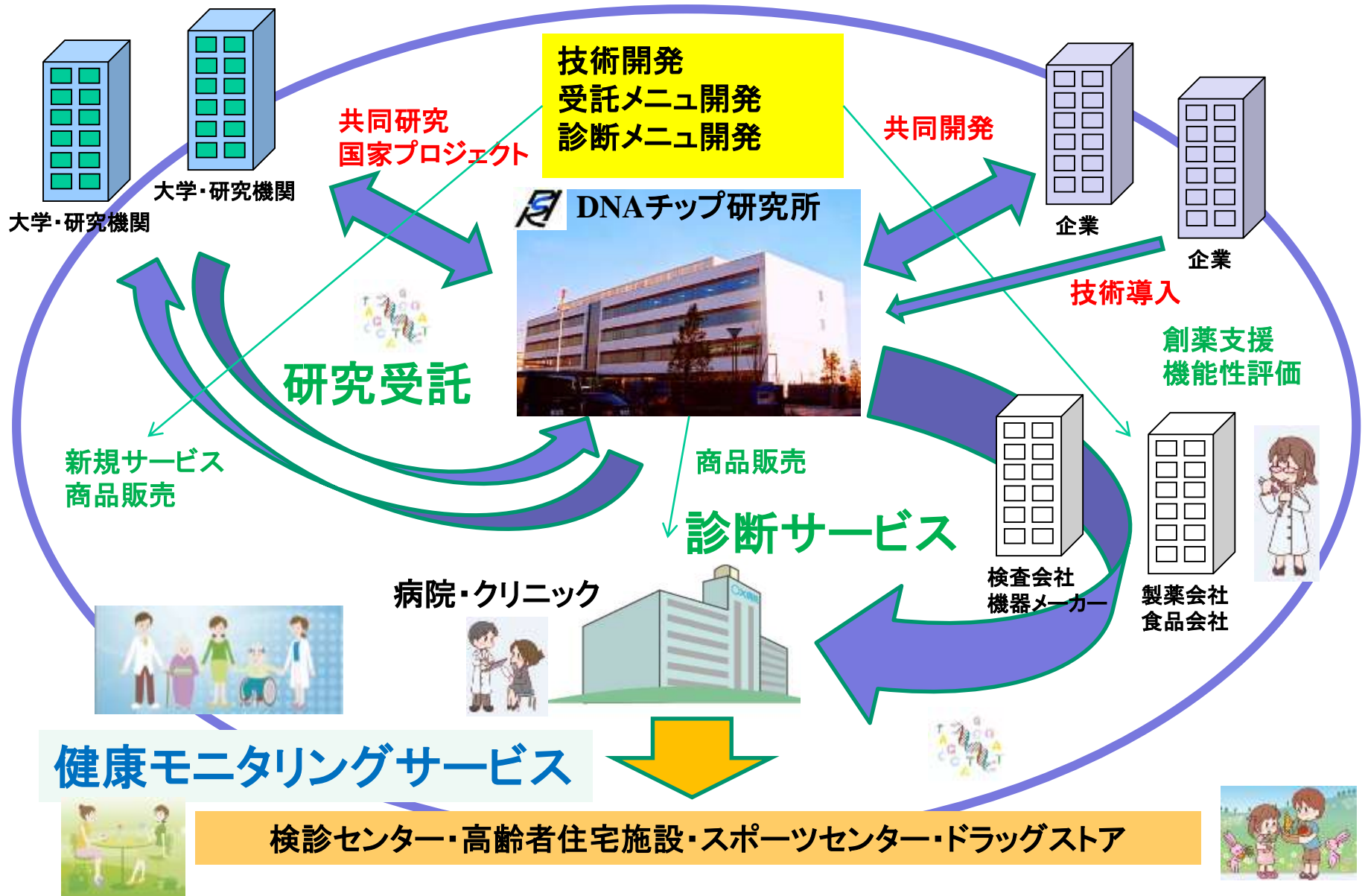
微量化・自動化の
開発が必要

共同研究開発



ポイントオブケア 検査 (POCT) による迅速健康モニタリング

Ⅲ-8. DNAチップ研究所事業スキーム



Ⅲ-9. 中期事業計画

推進方針		開発力強化と事業化加速(オープンイノベーション、最新技術のビジネス化、グローバル展開)					
研究受託事業を基本に診断関連事業を拡充し、2018年売上高6.5億円(診断2.5億円)を目指す		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1. 研究受託事業	1-1. 市場ニーズに合わせた受託メニュー拡充	○食品機能	○再生医療	○エクソソーム解析	○疾患パネル		
	1-2. 大型案件、新規顧客獲得のための営業力強化	○製販一体	○人員拡充	○提案型案件拡充			
	1-3. 最新技術を用いた新規受託メニュー開発	○微量化	○次世代Seq解析	○デジタルPCR	○バーコードSeq解析		
2. 診断事業	2-1. リウマチ多薬剤効果判定 - 3剤から5剤へ	○サービス開始		○合計3剤	○合計5剤	○病態予測	○寛解予測
	2-2. 未病モニタリング(RNAチェック)事業のメニュー拡充		○免疫年齢	○糖尿病	○うつ病	○アルツハイマー病	○医療情報システム ○統合サービス
	2-3. ガン関連コンパニオン診断事業のメニュー拡充			○肺癌(血漿DNA)	○神経膠腫	○大腸癌	
	2-4. 診断支援サービス販促強化			○サイト拡充 (他社連携)	○海外展開		

